

しも べつ ぶ いち じ いつ せき きょう づか  
**下別府一字一石経塚**

しま うちいち みや しん びゅう つうせん  
県道島ノ内一の宮線（新別府通線）改良工事に伴う  
発掘調査報告書

1995.3

宮崎県教育委員会

## 序

この報告書は、県道島ノ内一の宮線（新別府通線）改良工事に伴い、昭和61年1月に宮崎県教育委員会が実施した宮崎市吉村町に所在する下別府一字一石經塚の発掘調査の記録です。

今回の調査で、本県では初めての本格的な一字一石經塚の調査を行うことができ、近世における本県の一字一石經研究に多くの資料を得ることができました。

本書が学術資料だけでなく、社会教育や学校教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたってご協力いただいた地元の方々、および、県宮崎土木事務所、宮崎市教育委員会に厚くお礼を申し上げます。

平成7年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

## 例　　言

1. 本書は宮崎県土木部宮崎土木事務所が行った県道島ノ内一の宮線（新別府通線）改良工事に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎市吉村町下別府一字一石経塚（下別府遺跡）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県文化課埋蔵文化財係主任主事長津宗重（現、県総合博物館埋蔵文化財センター主査）、同永友良典（現、県文化課埋蔵文化財第二係主査）の担当で、昭和61年1月14日から22日に実施した。また、整理作業を調査年度である昭和60年度及び平成6年度に行った。
3. 下別府一字一石経塚は宮崎市吉村町下別府甲4057-2に所在する。
4. 本書に使用した位置図は国土地理院発行の5万分の1の地図をもとに作成し、周辺地形図等については宮崎市作成の5千分の1、及び宮崎土木事務所作成の工事図面をもとに作成した。
5. 遺構の実測、拓本等は現地で長津宗重及び永友良典の両調査員が行った。また、遺物の整理作業等は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の分類、統計、トレイス等については長津宗重、永友良典のほか整理作業員の協力を得た。
6. 本書に使用した遺構及び遺物写真は永友がおこなった。
7. 本書の執筆は第1章を永友、第2章以降を長津が担当し、編集は永友が行なった。
8. 碑石は現在、近くの真言宗浄土院に移築してある。
9. 経石については現在、県埋蔵文化財センターで保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 遺跡の環境	4
第Ⅱ章 下別府一字一石經塚の調査	7
第1節 調査の概要	7
第2節 一字一石經の經石	7
第3節 一字一石經とその原經	10
第4節 一字一石經の造営背景	12
第5節まとめ	12
資料	13~22
図版	23~50

## 挿図目次

第1図 位置図(1)	2
第2図 位置図(2)	3
第3図 地形図	4
第4図 碑石基壇実測図	8
第5図 埋納塙実測図	9

## 表目次

表1 下別府一字一石經塚周辺塔分布地名表	6
表2 主な県内石楽石經土地名表	6
表3 経石の書体別数量表	10
表4 経石の字別数量表	11

## 資料目次

資料1 法華三部経・下別府一字一石經塚発掘経石字別数量対照表 (下別府一字一石經塚経石・法華三部経)	13~20
資料2 下別府一字一石經塚発掘経石に見られるが法華三部経には見られない文字	21
資料3 両面に漢字を有する経石	22

## 図版目次

図版1	下別府一字一石経塚碑石	23
図版2	埋納壇内検出状況	24
図版3	経石(1)「安」～「雨」、「憂」～「遠」	25
図版4	経石(2)「穂」～「乾」、「勸」～「泣」	26
図版5	経石(3)「給」～「宮」、「恭」～「偈」	27
図版6	経石(4)「解」～「午」、「其」～「国」	28
図版7	経石(5)「黒」～「罪」、「数」～「自」	29
図版8	経石(6)「事」～「錯」、「寂」～「住」	30
図版9	経石(7)「童」～「生」、「清」～「震」	31
図版10	経石(8)「親」～「山」、「川」～「即」	32
図版11	経石(9)「足」～「脱」、「但」～「殿」	33
図版12	経石(10)「電」～「鉢」、「曇」～「奴」	34
図版13	経石(11)「漁」～「白」、「辟」～「辺」	35
図版14	経石(12)「偏」～「味」、「弥」～「文」	36
図版15	経石(13)「門」～「嬰」、「糞」～「留」	37
図版16	経石(14)「樓」～「惑」、法華三部経には見られない文字	38
図版17	経石(15) 両面に漢字を有する経石、梵字	39
図版18	経石(16) 表漢字、裏梵字	40
図版19	経石(17) 表漢字、裏梵字	41
図版20	経石(18) A書体の文字	42
図版21	経石(19) B書体の文字	43
図版22	経石(20) C書体の文字、A. B. C書体の文字「所」	44
図版23	経石(21) A. B. C書体の文字「子」「衆」「八」「比」	45
図版24	経石(22) A. B. C書体の文字「經」「生」「妙」	46
図版25	経石(23) A. B. C書体の文字「天」「与」「法」	47
図版26	経石(24) 多字一石「妙法蓮華經」ほか	48
図版27	経石(25) 多字一石	49
図版28	経石(26) 多字一石	50

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯と経過

宮崎市教育委員会では昭和52年度に市内の石仏・石塔調査を実施している。その調査カードには次の様な記載がなされている。

名称：石塔。

種別：一字一石經。

所在地：宮崎市吉村町南今村4056 平野宅前。

所有者：岩切忠治。

時代：享保15年（1730）。

方位：南向。

形態・計測：台 一重 巾91cm 高15cm 奥92cm、二重 巾60cm 高25cm 奥56.5cm、竿 巾35cm 高115cm 厚33.5cm。

周辺環境：県道島之内一の宮線から東へ5mほど入った雑貨屋の前に、約1坪余りの土地をとってそこに建立されている。

特徴：石碑型で前面にくりこみをもち、その中に銘を入れている。また、下部には蓮花を刻している。

その他：海蔵寺との関係が知られる。

……などの記載のほか位置図や銘文も全文が記されている。

宮崎市東部を南北に通る県道島之内一の宮線（新別府通線）は近年、急激な交通量の増加に伴い特に、朝夕の渋滞が深刻化している。そのため、宮崎土木事務所では県道の交通渋滞緩和をはかるため、県道の拡幅改良工事の計画を進めていたが、工事起点にあたる一の宮交差点より北に200m、県道より東へ5mの地点に祭られている「一字一石經」の碑石が路線内にかかることから、宮崎土木事務所、県文化課、宮崎市社会教育課、及び地元との間で協議を行なった結果、碑石の移設について地元も了解しており、現状での保存が困難であることから記録保存のための発掘調査を実施することになった。

発掘調査は県文化課埋蔵文化財係主任主事長津宗重、同永友良典の担当で昭和61年1月14日から22日までの5日間おこなった。

調査では、上部構造である碑石と基壇の実測及び碑文の拓本等の調査をおこなった後、碑石を取り外し、下部遺構の調査をおこなった。その結果、方形の土壙が検出され、約7万点の経石が埋納されていた。埋納壙内の経石は50cmの方眼を組み、厚さ10cmのブロックで8層に機械的に分けて取上げた。

経石の中に「口論品 妙法蓮華經 第三卷」と書写した経石が出土しており「妙法蓮華經」を書写しているものと思われる。

調査終了後、碑石については近くの一の宮町真言宗浄土院に移築した。出土した経石については整理作業のため埋蔵文化財センターに搬入した。

整理作業は調査終了後の昭和61年3月に一部行なったが、諸般の理由で平成6年度に大半の未整理分の整理作業と報告書の刊行を行なう経過となった。

整理作業では洗浄作業の後、鳥取県閲金町教育委員会刊行の「大河原經塚」資料を参考に、一字一石經石の経字を1点ずつ識別分類を行ない、識別可能な経石の字別数量を確認した。



第1図 下別府一字一石経塚位置図

1. 下別府一字一石経塚 17. 一の宮墓地

(その他の地名は表1を参照)



第2図 下別府一字一石経塚周辺図(1/1000)

下別府一字一石経塚発掘調査の体制は次のとおりである。

#### 調査主体

宮崎県教育委員会

教育長	船木 哲
教育次長	村田 総
教育次長	児玉郁夫
文化課長	永井初志
課長補佐	梨岡 孝
庶務係長	日高達夫
主事（庶務担当）	井野伸一
主幹兼埋蔵文化財係長	田中 茂
主任主事（発掘調査担当）	長津宗重
主任主事（発掘調査担当）	永友良典

#### 調査協力

宮崎県土木部宮崎土木事務所

宮崎市教育委員会

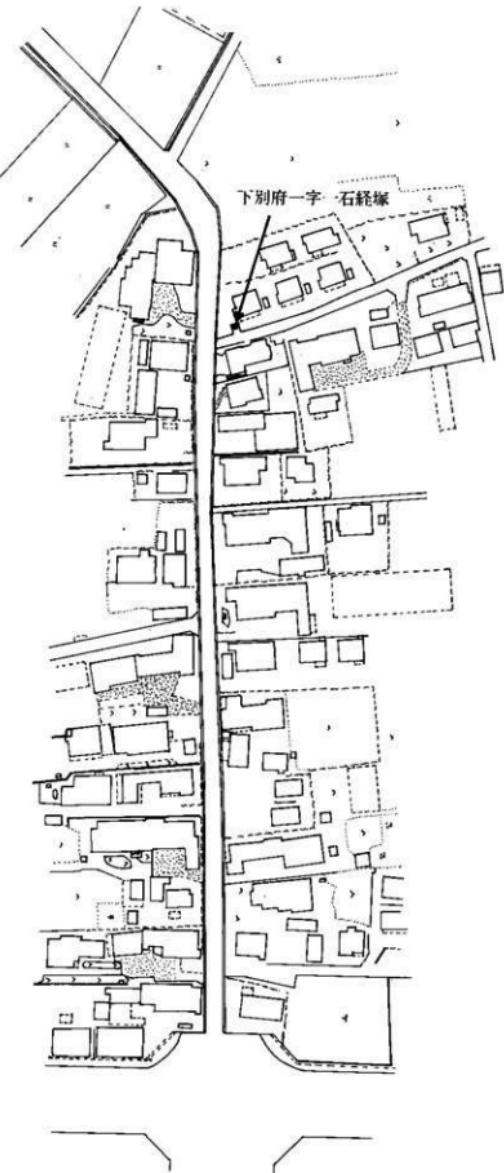
### 第2節 遺跡の環境

#### (1) 遺跡の位置

下別府一字一石経塚（下別府遺跡）は宮崎市吉村町下別府甲4057-2に所在する近世の経塚である。

経塚は、宮崎市中心部（宮崎市役所）から東へ約2.3kmにあり、市役所方面から宮崎港に通じる県道宮崎佐土原線、市内高州町から宮崎市南部の郡司分を結ぶ一つ葉自動車道路二期区間の県道一の宮西山崎線、さらに高州町から北部の住吉地区を結ぶ県道島之内一の宮線の三本の県道が交差する一の宮交差点から北へ200mに入った県道島之内一の宮線から東へ約5mそれた場所に建っていた。

経塚のある一帯は宮崎市中央部を流れる大淀川によって形成された堆積平野が広がり、標高も3m~4mと低い。また、遺跡の北には大淀川河口にできた一つ瀬入江に流れ込む小河川の新別府川が流れ、その北には海岸砂丘が連なる。遺跡周辺は以前は水田地帯であつ



第3図 地形図

たが、近年、宅地化が進み住宅地となっている。経塚は海岸線から西へ約1.5km、大淀川左岸から北へ約1.3kmの河口近くにある。

#### (2) 歴史的な環境

遺跡の所在する下別府は、天正年間には「下之別府」の地名が見られ、天正19年の「日向国五郡分帳」には「下之別府 十五町」の記述がある。

江戸期に入ると「下別府村」の村名が見られる。はじめは延岡藩領となっており慶長19年に藩主有馬直純は幕府の鎮国令に従い赤江河口北岸の下別府の地に遠見番所を置いている。

元禄5年、有馬氏が移封されたを契機とし、下別府は江田・新別府・吉村・福島とともに幕府領にとり入れられた。同時に臼杵郡の富高・細島など六ヶ村、児湯郡の三宅・穂北など十ヶ村なども幕府領となり、それぞれ宮崎・富高・穂北とよび、諸県郡本庄とともに日向天領の中心であった。

なお、下別府村の村高は元禄11年には125石余、天保9年の幕領調査では187石余の記録が見られる。「日向国史」の「吉村」の項には「下別府 本村ノ南ニアリ東西凡二町三十間南北凡二町人家三十四戸…」と旧下別府村の規模が記載されている。また、同項の古迹の欄には庵ノ山、正光寺跡、明星寺跡、淨土院跡、海藏禪寺跡の寺跡のあるがいずれも明治4年に廃し宅地となっている。「日向国史」には下別府一字一石経塚との関係が考えられる海藏禪寺跡の名も見られるが下別府の地が天領ということもあり資料は乏しくほとんど確認できない。なお、下別府村は明治9年には吉村の一部となる。

#### (3) 周辺の遺跡

平成元年度に宮崎市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査では市内の石仏・石塔の調査も合せて行なっている。下別府一字一石経塚周辺の石塔分布を見ると、後世の様々な要因も考えられるが下別府一字一石経塚の所在する下別府周辺の吉村町から以北の県道島ノ内一の宮線に沿った新別府町から阿波岐原町、山崎町にかけての海岸砂丘上に分布する(表1)。旧下別府村、旧新別府村、旧吉村、旧江田村の村内にあたる。中には天正9(1581)年の庚申塔や天文17(1548)年の板碑も見られるが正徳元(1711)年以降江戸中期から後期の時期の庚申塔や月待供養塔などが点在している。特に、下別府一字一石経塚の南にある一の宮墓地(宮崎市吉村町新別府)には天保15(1844)年銘の大乘妙典一字一石供養塔がある。

なお、宮崎県内で礎石經を出土した主な遺跡は表2のとおりである。

参考文献 平部儀南「日向地誌」 1929

日高次吉「宮崎県の歴史」 1970

宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第1集「山内石塔群」 1984

「角川日本地名大辞典 45 宮崎県」 1986

「宮崎市遺跡詳細分布調査報告書」II 1990



## 第Ⅱ章 下別府一字一石経塚の調査

### 第1節 調査の概要

下別府一字一石経塚（宮崎市吉村町字下別府甲4057-2）は、宮崎市の中央を流れる大淀川左岸で北を流れる新別府川との中間の標高約3mに位置する。海岸から750mの地点である。近くの一の宮墓地（宮崎市吉村町下別府）には天保15（1844）年銘大乘妙典一字一石供養塔がある。

下別府一字一石経塚は碑石・基壇が残っており、新設道路にかかったために昭和61年1月14日～22日に調査を行った。

碑石は南側の正面（南面）は「一天泰平四海静□ 玄奉書寫大乘妙典一石一字供養塔 風而須次五穀成就」、右面（東面）は「願主 年寄□ 恒助 賴口兵口衛 □友弥市右衛 大和國法海圓性 江戸之 寂港役人 忠右衛門 新口衛門 □七 辛尼法」、左面（西面）は「□時享保十有五 庚戌 天 十一月廿七日 亀鶴山海藏禪寺自眼」、裏面（北面）は「書寫行者 武江落合光徳密寺周遍良秀 助化當行重山嶺右衛門元頼」の文字が彫り込まれている。碑石は幅70cm、奥行き67cm、高さ238cmで、頭部は正面觀が底辺の二角でそれぞれ28度を測る三角形を呈し、平面觀では、四方から稜線が直線的に一点に集まる四角錐形を呈する。碑正面の額部には玄（バク=釈迦）の三尊體子を印刻する。基壇の一段目は2枚の板石で構成され、その上に碑石を載せる抉りを有する基部がある。基部は幅120cm、奥行き113cm、高さ50cm、抉りは幅76cm、奥行き70cm、深さ8cmである。基壇の板石は2枚で幅183cm、奥行き84cmと87cm、高さ30cmである（第4図）。

碑石・基壇を実測・拓本後、移動させると一字一石経埋納塚が現れた。埋納塚は、上部構造である碑石・基壇の方向と位置がずれており、埋納塚の南東部に碑石・基壇が建っていたことになる。碑石と基壇は何らかの原因で後世動かされたと思われる。埋納塚は砂地に掘り込んでおり、プランは隅丸方形で、上場の規模は、北辺が176cm、東辺が189cm、西辺が163cm、南辺が162cmで、深さ131cmである。下場の規模は北辺が114cm、東辺が106cm、西辺が123cm、南辺が134cmである。埋納塚の上場の規模は一辺162cm～189cm（5～6尺）で、意外とルーズに掘られたと考えられる。埋納塚内の経石を50cm方眼の厚さ10cmのブロックで8層に機械的に分けて取り上げた（第5図）。

### 第2節 一字一石経の経石

今回の発掘調査で出土した経石は68,090個である。この内、明確に文字を読める経石が18,400個で27.0%である。残りの文字が肉眼で判読できない経石も本来は文字が書写されていたと推定される。

『大河原経塚』の分類に従うと、文字が明確に読める経石18,400個は大別して2種群に分けられる。第1種は経石の表面に経文の1字を書写するタイプで、第2種は経石の表面に真言の梵字を書写するタイプである。第1種A群はその在り方から細別される。

A群第1類は、経石の表面に経文の1字を書写、裏面白地のもの。

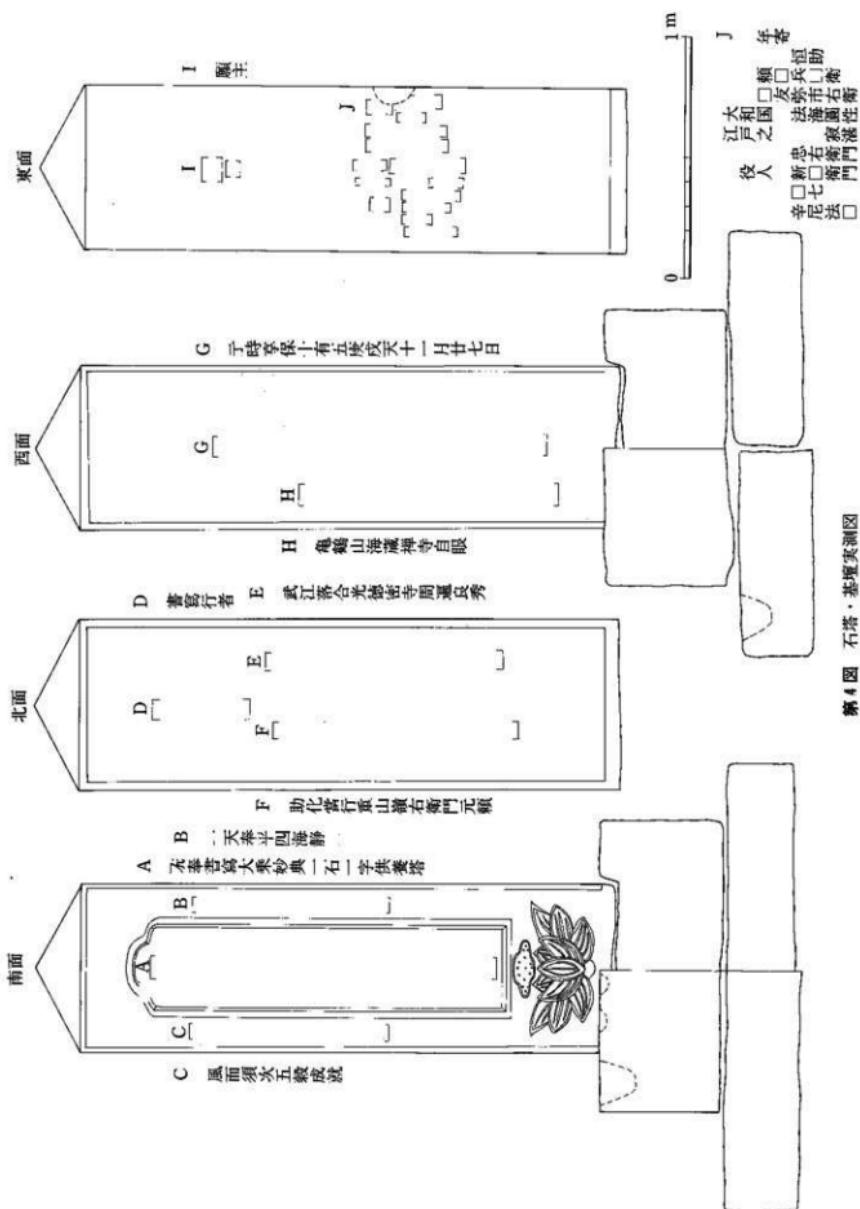
2類は、経石の表面に経文の1字を書写、裏面に1字を書写するもの。

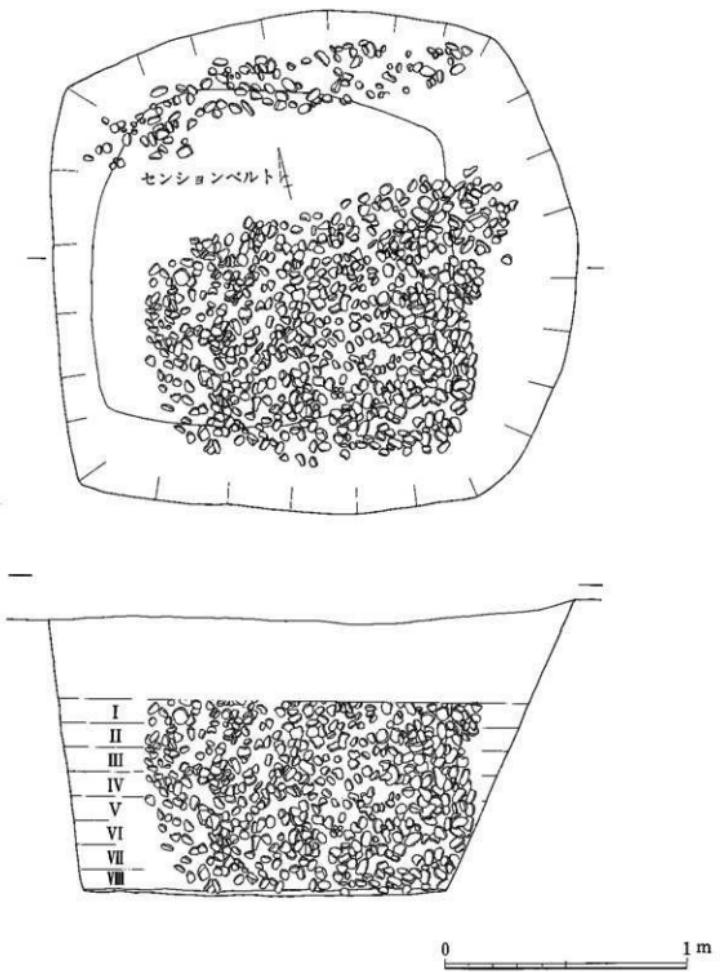
3類は、表裏面とも複数の文字を書写するもの。

4類は、表面に複数の文字を書写するもの。

A群第1類の経石は総数18,117個で、経石の多くが属している。I～III層の11,832個を筆跡で分けると、Aが2,905個（24.6%）、Bが8,252個（69.7%）、Cが675個（5.7%）である（表3）。

第4图 石塔·基座实测图





第5図 埋納場実測図

表3 経石の書体別数量表

書体	A	B	C	計
I層	1,409(34.5%)	2,628(64.4%)	46( 1.1%)	4,083
II層	948(23.7%)	2,897(72.3%)	161( 4.0%)	4,006
III層	548(14.4%)	2,727(73.1%)	468(12.5%)	3,733
計	2,905(24.6%)	8,252(69.7%)	675( 5.7%)	11,832

筆跡によれば二人の書き手によって丁寧に1字ずつを書写する。河原石の平坦面や広い面を選んで、書写している。なお「書寫行者 武江落合光徳密寺周遍良秀 助化當行重山嶺右衛門元頼」という碑文からBの筆跡は周遍良秀の書写であり、Aの筆跡は重山嶺右衛門元頼の書写である。Cの筆跡は不明である。周遍良秀が主として7割の経石を書写し、それを重山嶺右衛門元頼が助けて2割5分書写している。

2類の経石は総数86個である。「有」・「為」・「時」・「常」・「佛」・「菩」の6個は表裏面とも同文字を書写しており、滲みなどで書き損じたために、裏面に書き直したと考えられる。表面に「非」、裏面に「苦」のように表裏面に異なる文字を書写したものが72個ある。「僧」・「薩」の組み合わせは2個だけで、残りはすべて異なる。特に「薩」は8個、「菩」・「羅」・「當」は3個である。表面に「修」、裏面に「劫」を書写しているものは「諸説菩薩歷修劫」という経文があるので、表面に「修」と書写した後、実は「劫」と書くべきであることに気付き裏面に劫を書写したと推定される。「等」・「菩」は「上行等菩薩」、「切」・「佛」は「隨諸一切佛」の経文の前後取り違えである。72個の中の多くはこの場合と推定される。

3類は表裏面に「雨昇」・「法得」を書写している。

4類は表面に「是」を2文字書写しており、書き損じたために裏面ではなく表面に書き直したものである。

5類は経典の名前を書写したもので、表面に「□論品 妙法蓮華經 第三卷」である。

裏面に供養者名を書写する第1種B群はない。

「夢幻童子 □實得正居士 □妙真信女」という被供養者名を書写する第1種C群がある。

第2種は梵字を表面に書写するもので、計283個である。

1類は経石の表面に梵字の1字を書写、裏面白地のもの。

2類は経石の表面に梵字の1字を書写、裏面に経文の1字を書写するもの。

3類は経石の表面に複数の梵字を書写、裏面に経文の1字を書写するもの。

1類は75個である。

2類は208個である。

3類は光明真言の23個を書写している。

一字一石の経石には平均長さ5.1cm、幅3.6cm、厚さ1.9cm、重さ50.0gの一石を書くのに適した河原石が選ばれている。

### 第3節 一字一石經とその原経

今回の調査で得られた経石の内、明確に文字が読めた経石は18,400個である。その中に「□論品 妙法蓮華經 第三卷」と書写した経石が出土したことから「妙法蓮華經」を書写していることがわかる。

一般に一字一石經の原経は「妙法蓮華經」、或はこれに開結2経「無量義經・佛說觀音菩薩行法經」を加



経典を一石に一字書写する以外に梵字を一石に一字書写した経石がある。この梵字は「光明真言23字」が1個の石に書写していることなどから「光明真言」の書写を中心としていると考えられる。

以上のように当經塚の一宇一石経は、「□論品 妙法蓮華經 第三卷」と書写した経石の存在等から法華三部経の一宇一石書写を中心に、他の書写も行っている。しかし法華三部経は、合計82,681個の一宇一石経になるが、当一字一石経塚は68,090個と約14,000個ほど不足しており、法華三部経の一部の経典が書写されていないことになる。

#### 第4節 一字一石経の造営背景

下別府經塚の造営時期は碑石の「□時享保十有五 庚天 戊 十一月廿七日 龜鵠山海藏禪寺自眼」から享保十五（1730）年である。造立願主は碑石の「願主 年寄□ 恒助 頼□兵□衛 □友弥市右衛 大和國法海□性 江戸之□□寂□ 役人 忠右衛門 新□衛門 □七 辛尼法」から年寄・役人などが行ったことが分かる。造立趣旨は碑石の「一天泰平四海静□ □奉書□大乘妙典一石一字供養塔 風而須次五穀成就」から天下太平・海静か・風静か・五穀豊饒を願ったものである。願主の依頼により「書□行者 武江落合光徳密寺周遍良秀 助化當行重山嶺右衛門元賴」から経石は2人によって書写されていることが明らかであるが、経石の筆跡からはもう1人わずかな量を書写している。

#### 第5節まとめ

下別府一字一石經塚（宮崎市吉村町字下別府甲4057-2）について発掘調査した結果、次の成果を得た。

- 1 下別府經塚は、1.6~1.9m四方の隅丸方形プランの土壙の中に一字一石経を納め、その上に基壇・碑石を建てる構造である。
- 2 下別府經塚に埋納された一字一石経は68,090個で、経字を読めた経石は18,400個である。その中に表面に「□論品 妙法蓮華經 第三卷」と書写した経石の存在から法華三部経を書写した可能性がある。そこでこれらの経石を法華三部経と対照した結果、多くの文字が法華三部経と共通することから、法華三部経を中心に書写したと考えられる。しかし、法華三部経には合計82,681個の一宇一石経が必要であるが、当經塚は68,090個と約14,000個ほど不足しており、一部の経典が書写されていないことになる。
- 3 なお、経石中には法華三部経に見えない文字が157字226個存在することや、法華三部経に使用された文字数を超える文字の存在から「他の経典」の書写も推定されるが、適切な経典は不明である。
- 4 梵字から光明真言を書写している。
- 5 経石には「夢幻童子 □實得正居士 □妙眞信女」という被供養者名を書写した経石がある。
- 6 「願主 年寄□ 恒助 頼□兵□衛 □友弥市右衛 大和國法海□性 江戸之□□寂□ 役人 忠右衛門 新右衛門 □七 辛尼法」から年寄・役人などが行ったことが分かる。
- 7 「書□行者 武江落合光徳密寺周遍良秀 助化當行重山嶺右衛門元賴」から経石は2人によって書写されていることが明らかであるが、経石の筆跡からは3人が書写している。
- 8 「一天泰平四海静□ □奉書□大乘妙典一石一字供養塔 風而須次五穀成就」から天下太平・海静か・風静か・五穀豊饒を願ったものである。
- 9 下別府經塚の造営時期は「□時享保十有五 庚天 戊 十一月廿七日 龜鵠山海藏禪寺自眼」から享保十五（1730）年である。
- 10 下別府經塚は調査後、碑石・基壇は移転し、経石は県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

# 資料

















資料2 下別府一字一石經塚出土經石には見られるが法華三部經には見えない文字

并2	盡1	房2	哥1	秀1	蘂3	春1	敏1	惣1	詞1
傘6	隋1	菜2	愍1	糾1	秋1	譜1	市2	史1	斬2
介2	妹1	着4	歎1	遼1	便1	促1	縉1	懃1	惟1
菜2	備1	花1	愍1	蘂1	蹊1	涌1	堤1	憲1	宵1
臥2	數1	缺1	訂1	藉1	更1	罰1	徒1	俊1	送1
宰1	省1	蘿1	蒸1	禍1	庭1	偈1	費1	今1	全1
安1	菴1	舉1	竺1	統3	麁1	拔1	隼1	伯1	陰1
蓀1	劣1	凡1	受1	面1	軒1	府1	耕1	鷄1	歎1
委1	益1	窟1	キ1	龜1	惄1	擅1	字1	悉1	悉1
傍1	鬻1	溢1	訛1	姿1	愍2	束1	番2	侑1	蘿1
咤1	訛2	影1	涌1	兀1	察1	銑1	兄1	眷1	桐1
勃2	點1	話4	雖1	敏1	险1	曠1	曠1	數1	貨1
復1	堤1	痺1	鄆1	索1	錯1	脩1	穢1	合1	塘1
矢6	袖1	謔1	貫1	科1	虛6	跋2	微1	處1	午2
書1	緩1	狹1	瞻1	禮1	玲1	圓1	尙1	期3	勸1
締1	程1	蜀1	幅1	亮1	渥1	輩35			
喻1	浦1	蹠1	艾1	簡1	輶2	叶1			
跔1	馬1	直1	呂1	手1	得3	顛1			
𡇗1	訛1	來1	闇1	隆1	界12	幡1			

資料3 両面に漢字を有する経石

1. 表裏面とも異なる文字を有する経石

薩・僧(2)	薩・菜	薩・捨	薩・佛	薩・門	薩・劫	
薩・調	菩・名	菩・等	菩・大	菩・世	羅・妙	羅・大
羅・當	當・所	當・華	華・鼻	華・?	非・苦	
立・支	密・臂	音・提	聞・不	王・求	復・威	
其・華	念・舌	如・干	今・可	干・尔	嚴・壽	
惡・汝	歲・脩	弟・阿	日・切	道・一	已・子	
已・生	劫・修	報・一	佛・切	誦・拾	等・其	
可・下	一・及	出・之	出・之	法・為	比・切	
昧・應	三・或	金・認	正・人	聚・寶	國・辟	
證・燒	河・作	離・實	數・諦	身・電	人・是	
婆・衆	德・相	勢・斯	王・不	音・法	養・皆	
予・者	此・由	衆・是	心・?	即・?	震・?	
道・?	時・?	得・?	勲・?			

2. 表面の字を裏面で訂した経石

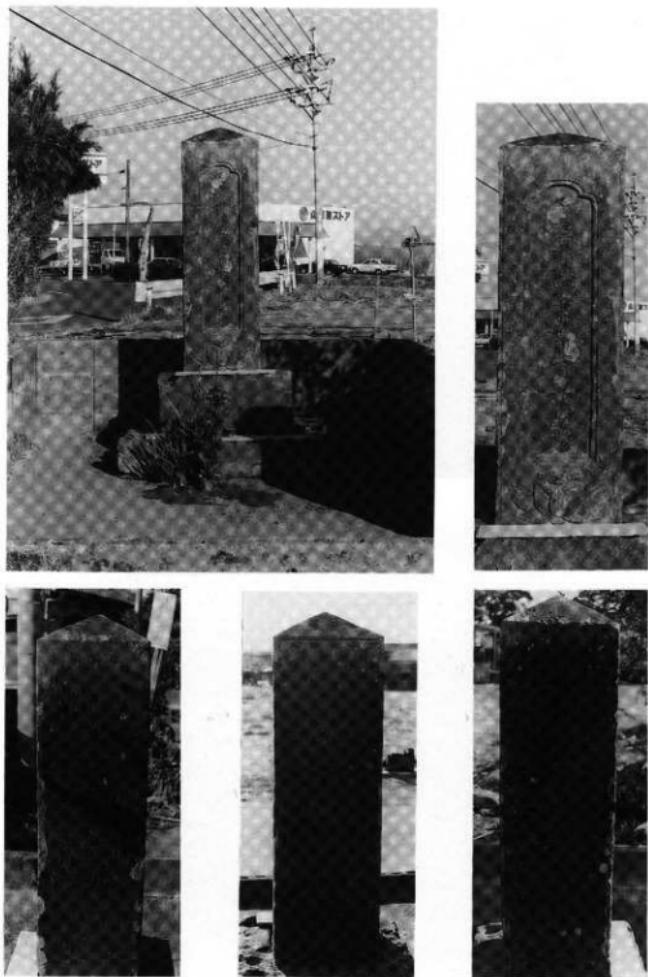
有・有　　為・為　　時・時　　常・常　　佛・佛　　菩・菩

3. 表面の字を表面で訂した経石

是・是

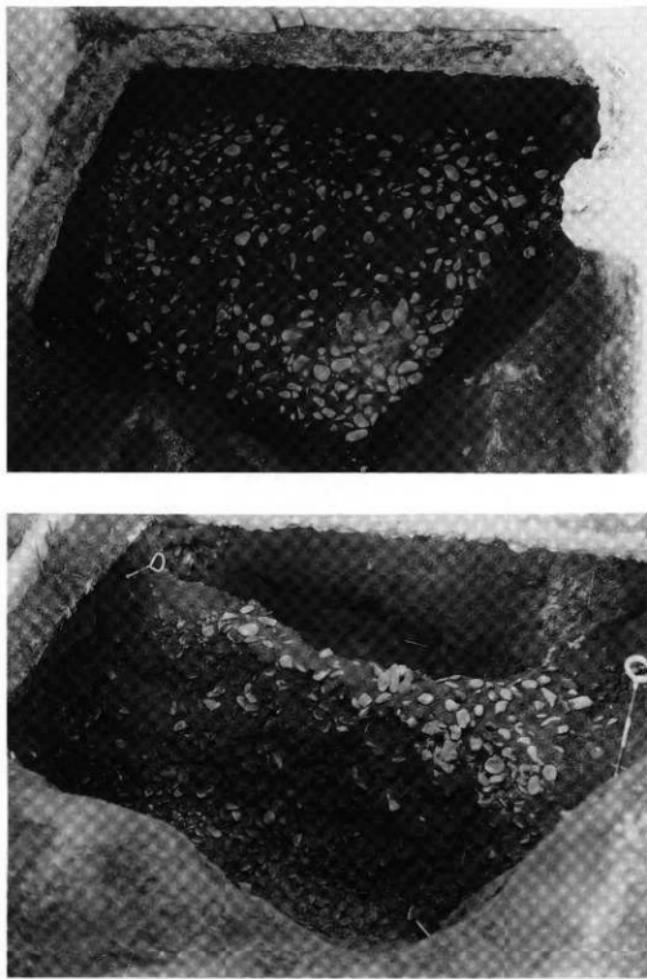
4. 両面訂正経石

雨　　昇　　法　　導

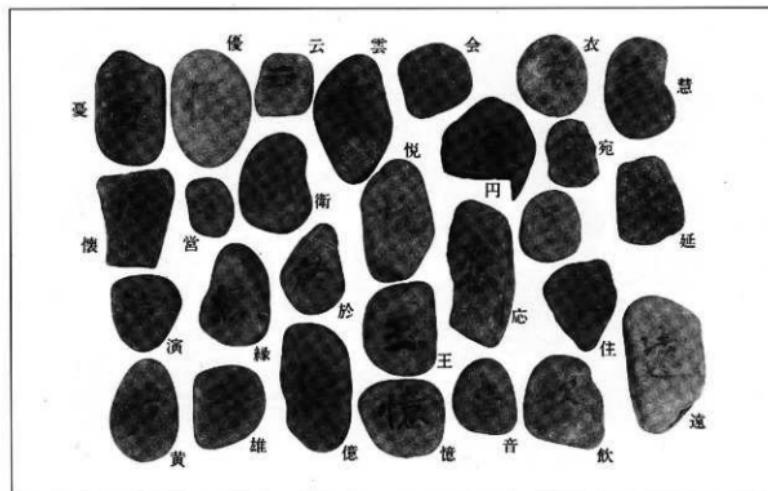
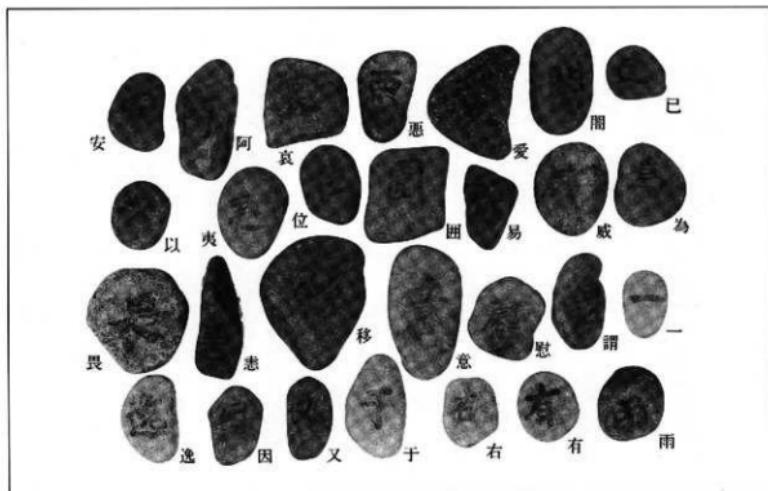


下別府一字一石経塚碑石

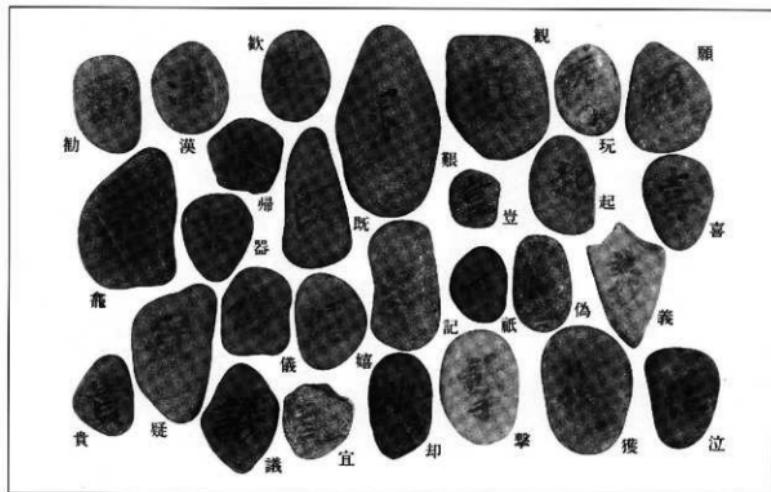
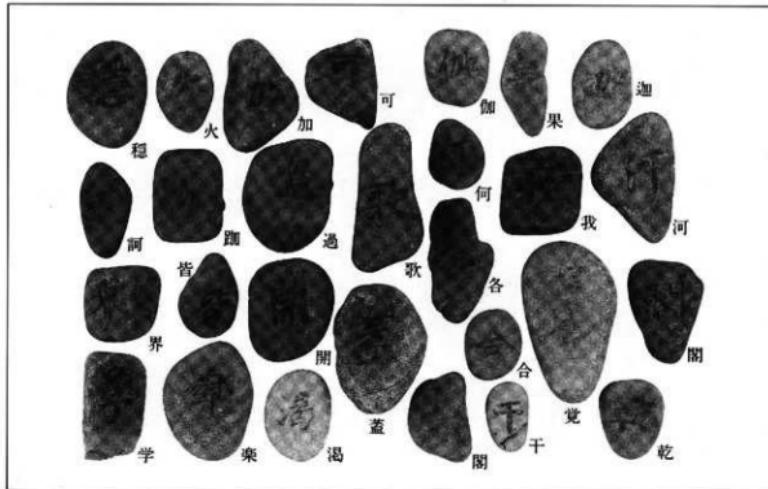
(上左…全景、上右…碑石正面、下左…右面、下中…裏面、下右…左面)



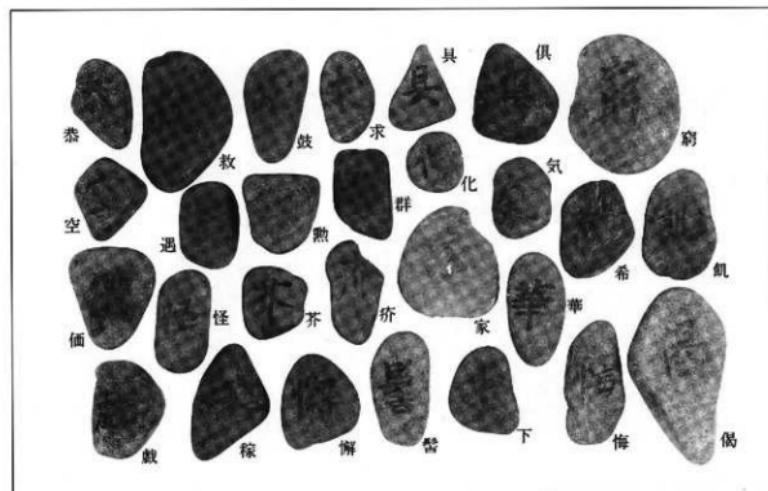
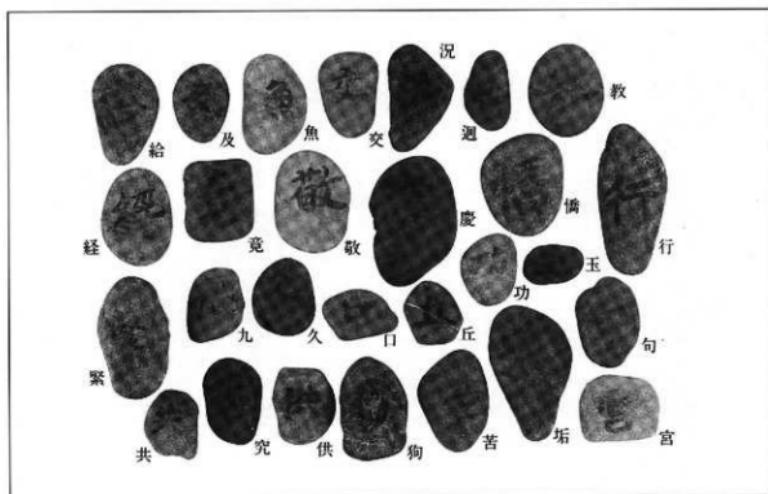
埋納罐内検出状況(上…平面、下…断面)



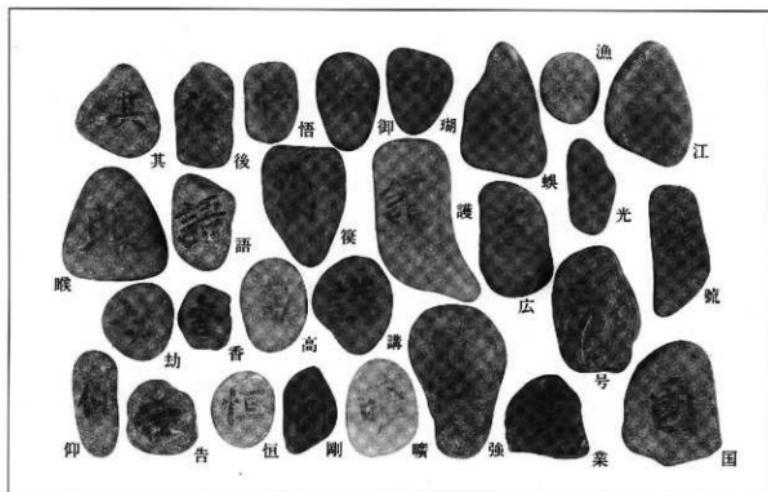
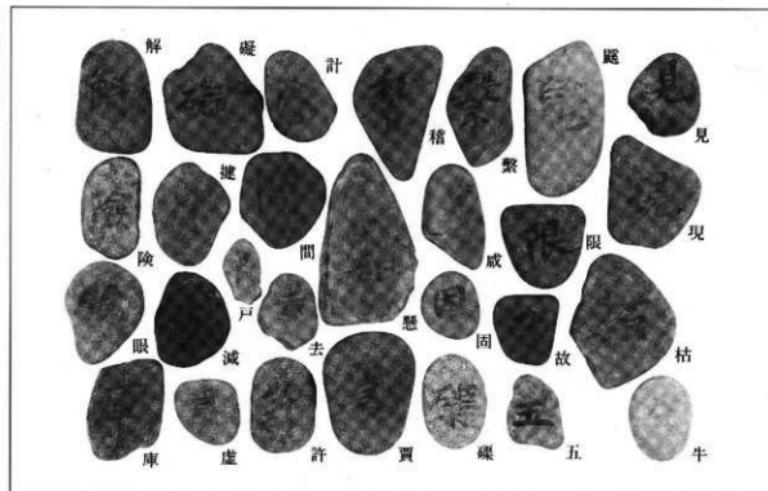
経石(1) 上「安」~「雨」、下「憂」~「遠」



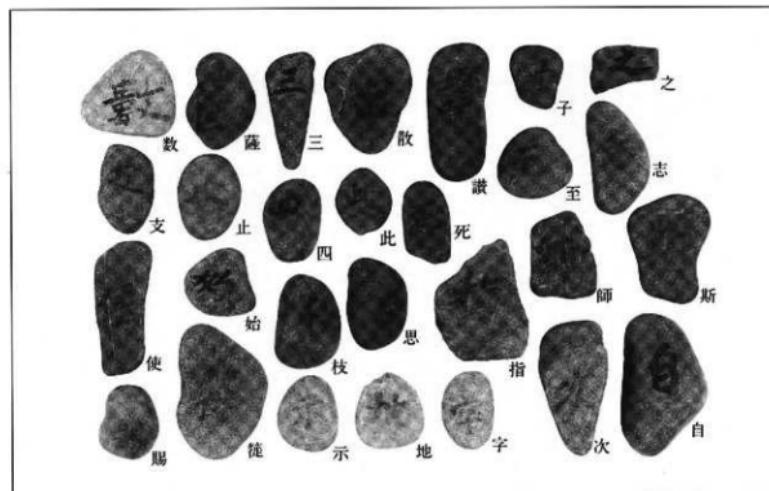
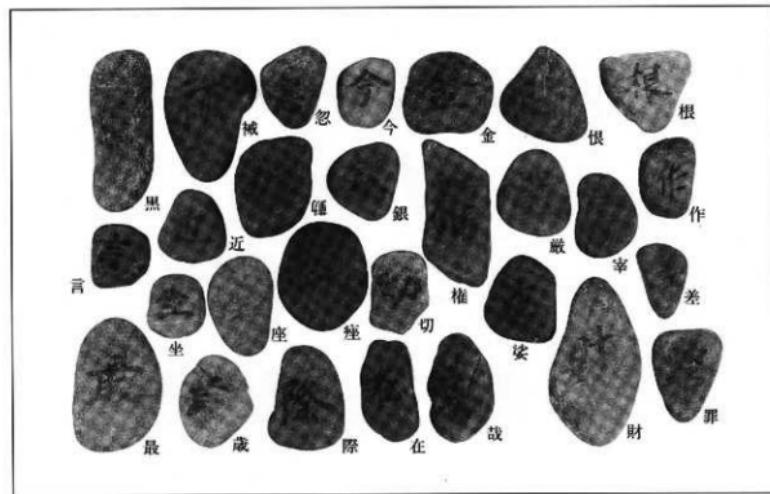
経石(2) 上「穩」~「乾」、下「勸」~「泣」



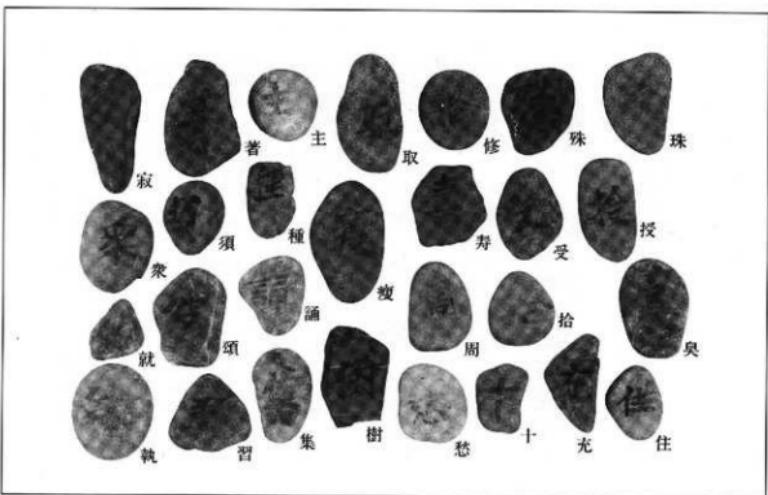
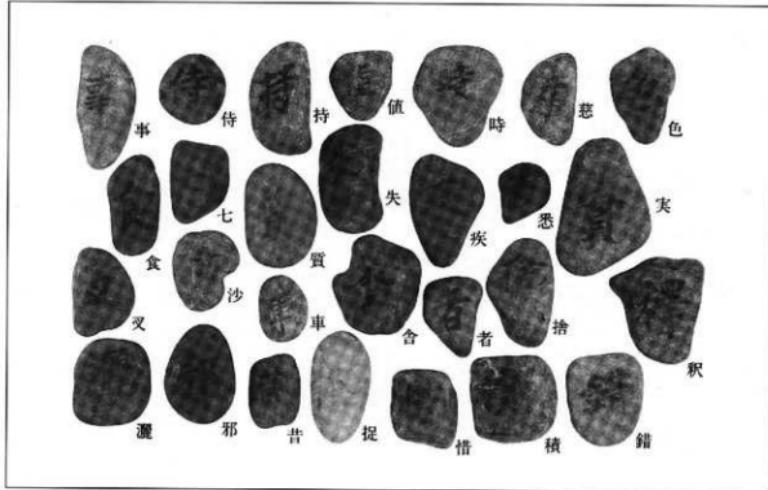
経石(3) 上「給」～「宮」、下「恭」～「偶」



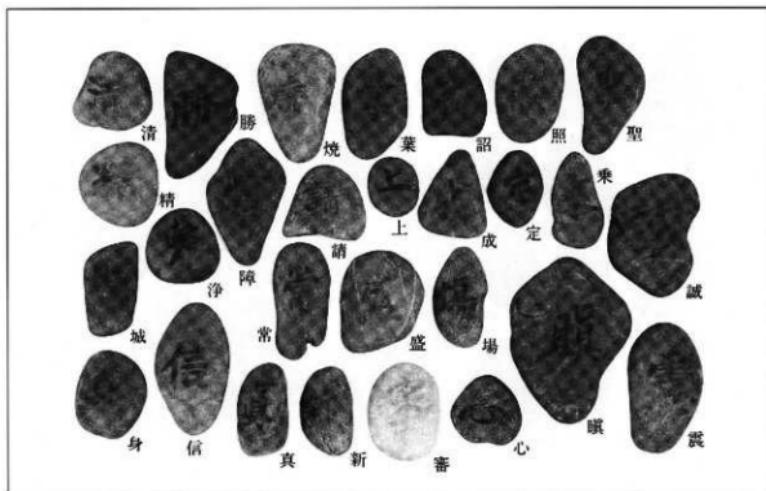
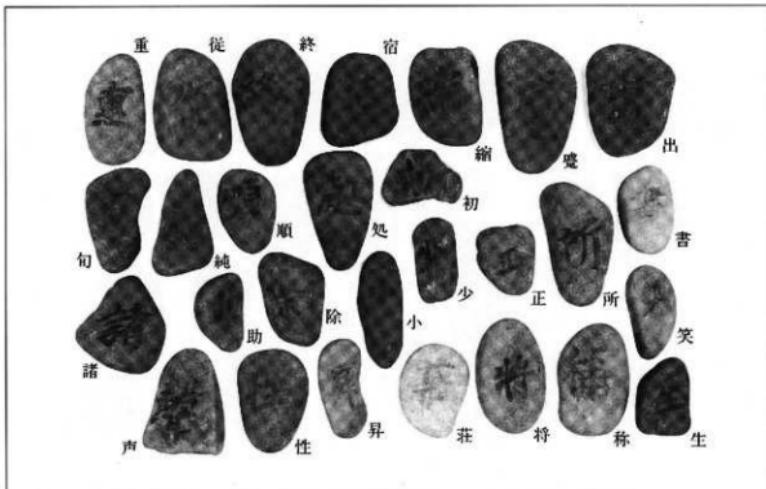
経石(4) 上「解」～「牛」、下「其」～「国」



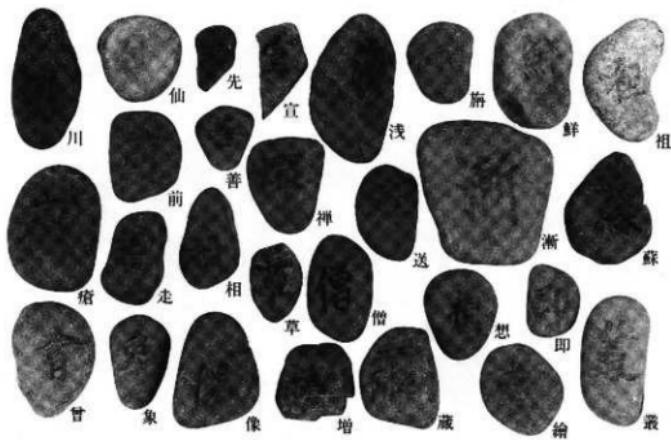
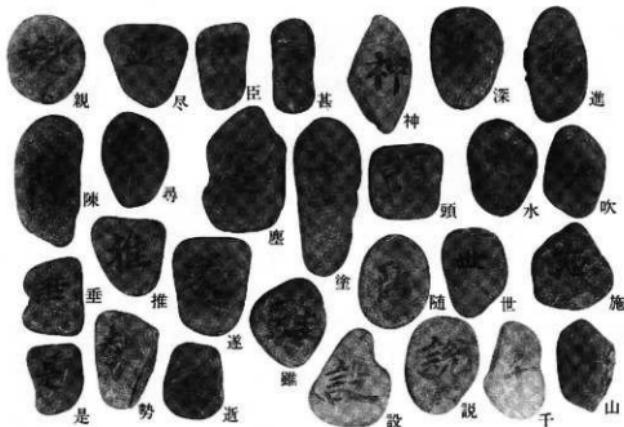
経石(5) 上「黒」～「罪」、下「数」～「自」



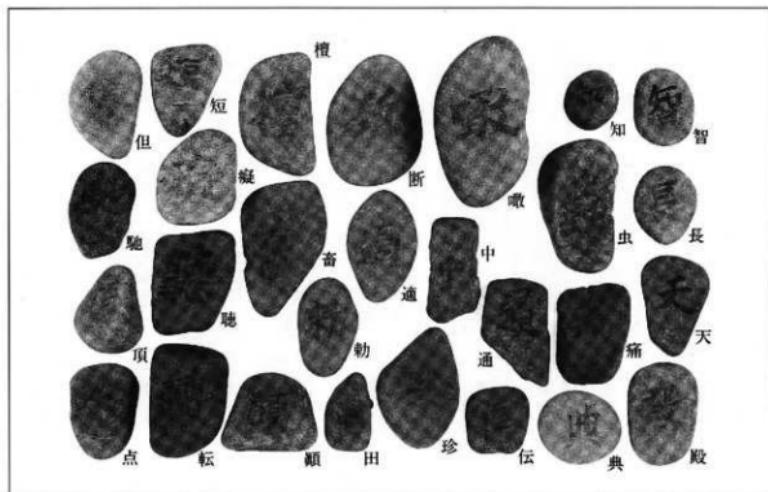
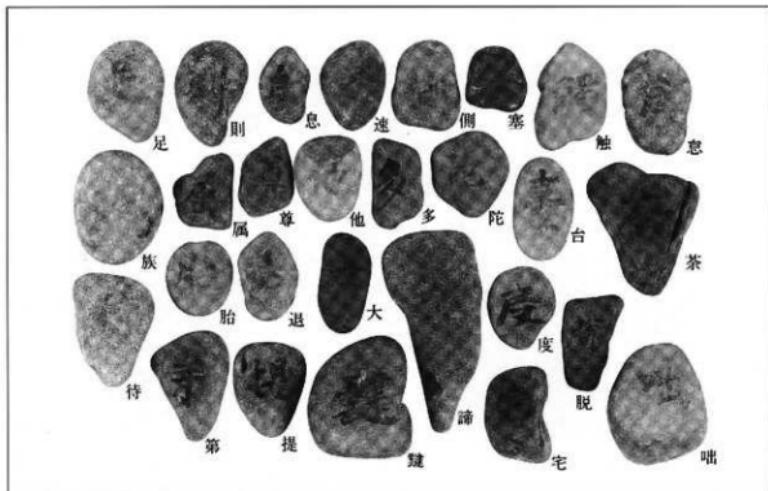
絆石(6) 上「事」～「錯」、下「寂」～「住」



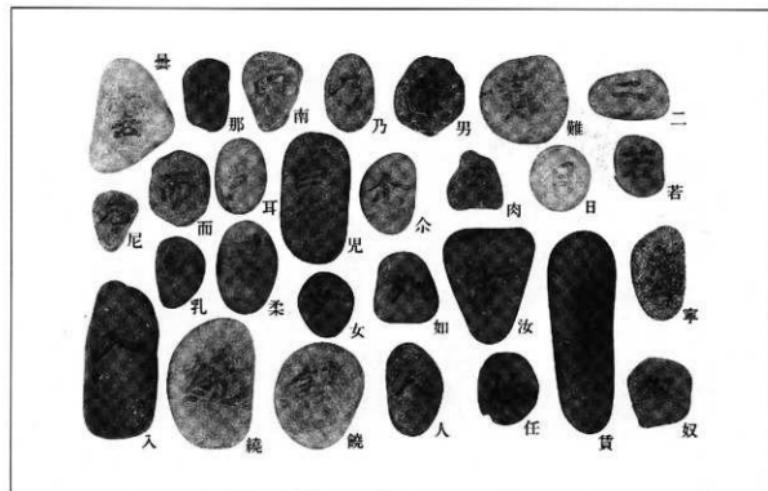
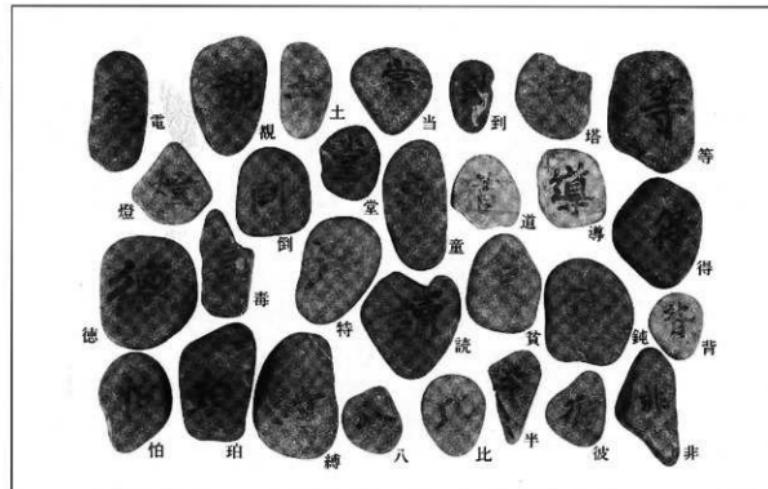
経石(7) 上「重」~「生」、下「清」~「震」



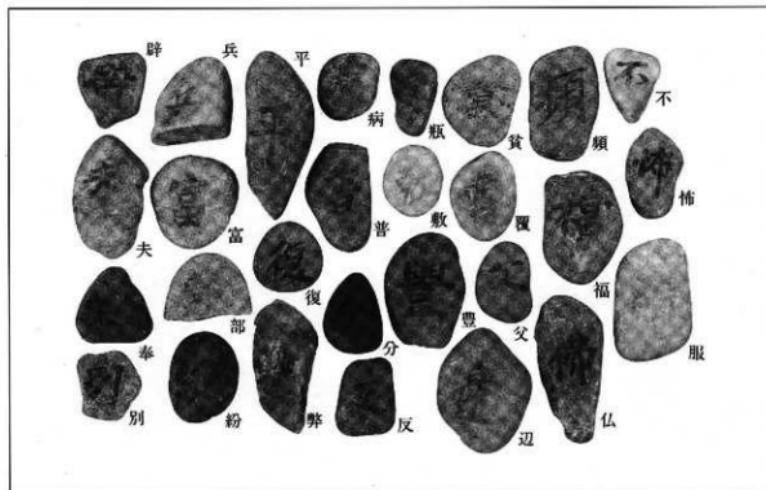
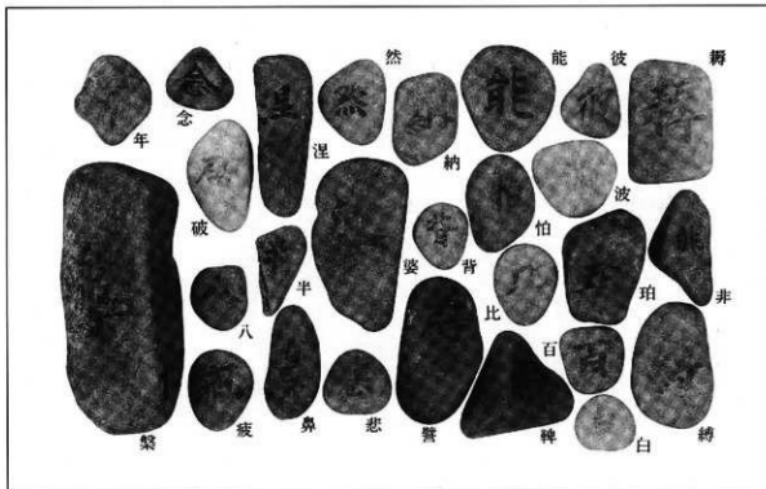
経石(8) 上「親」～「山」、下「川」～「即」



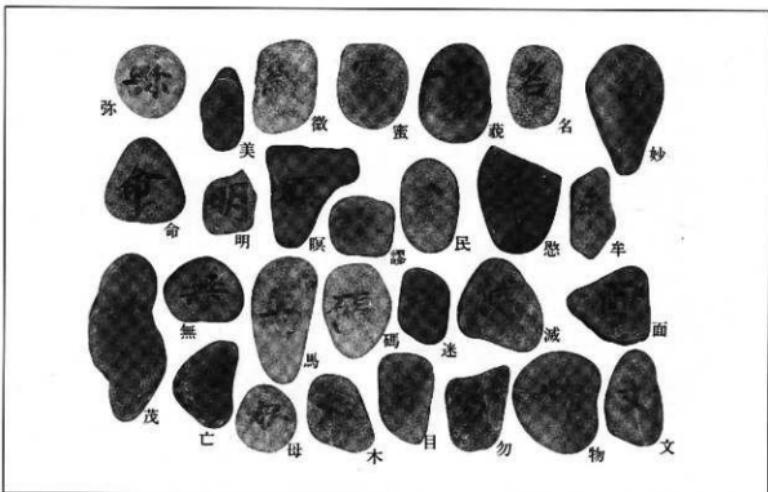
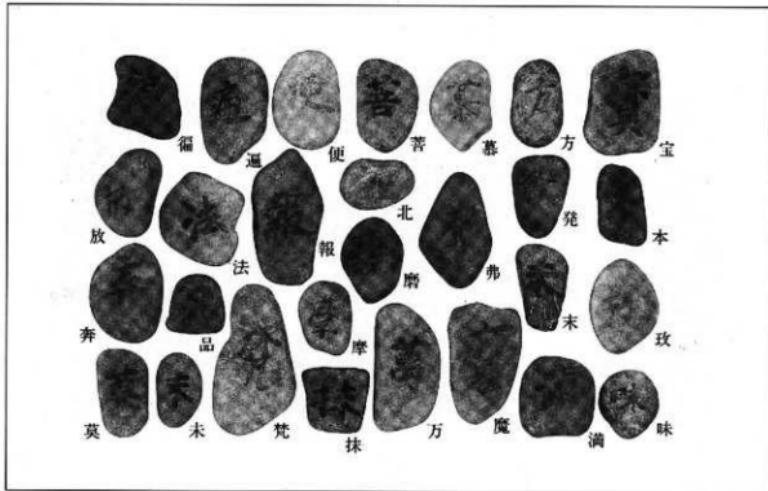
経石(9) 上「足」～「脱」、下「但」～「殿」



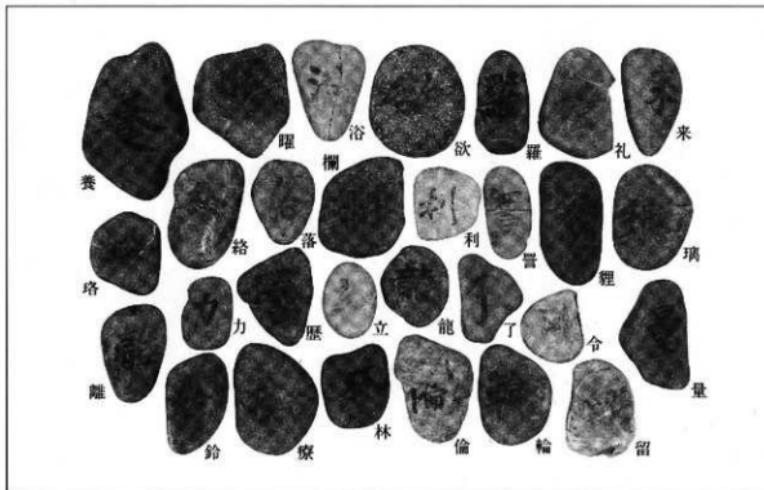
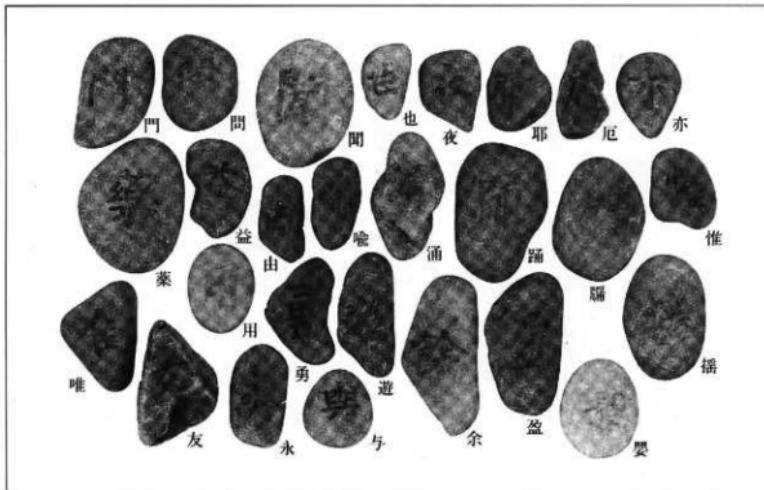
経石(10) 上「電」～「鈍」、下「曼」～「奴」



経石(11) 上「渥」～「白」、下「辟」～「辺」



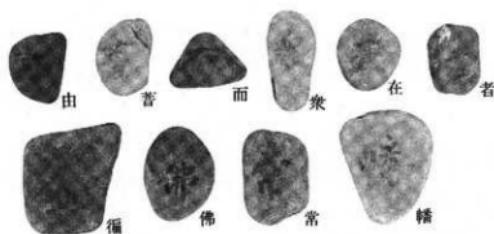
經石(12) 上「徒」~「味」、下「弥」~「文」



経石(13) 上「門」～「嬰」、下「養」～「留」



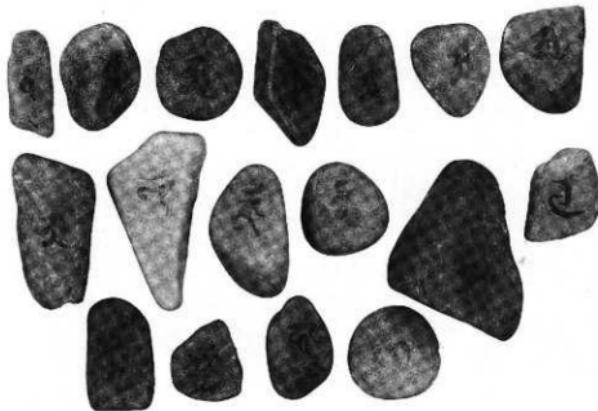
経石(14) 上「樓」~「惑」、中・下(法華三部経には見られない文字)



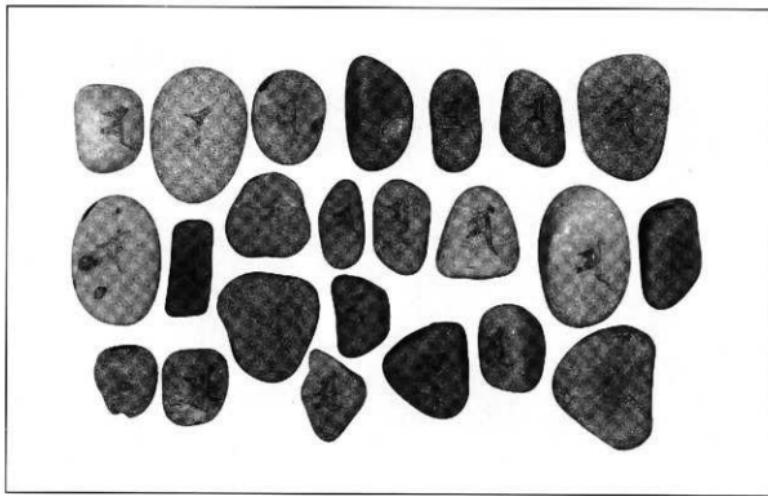
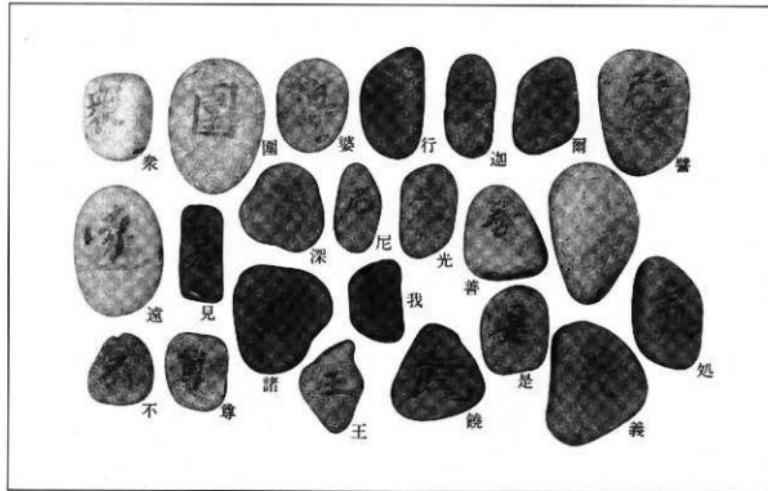
表



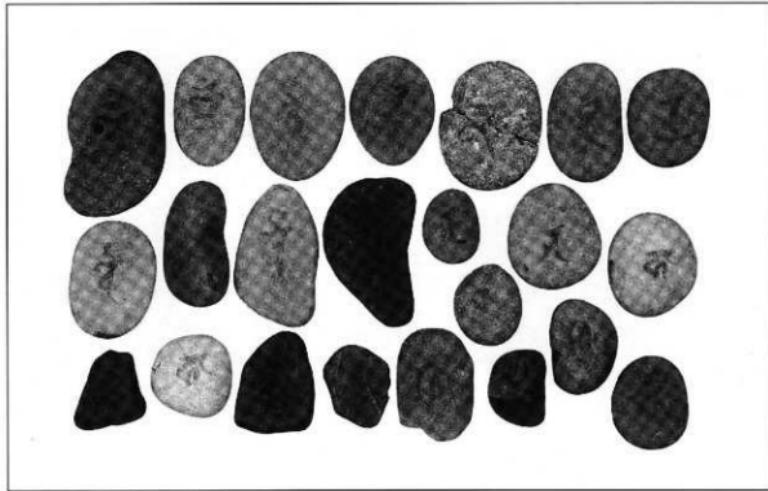
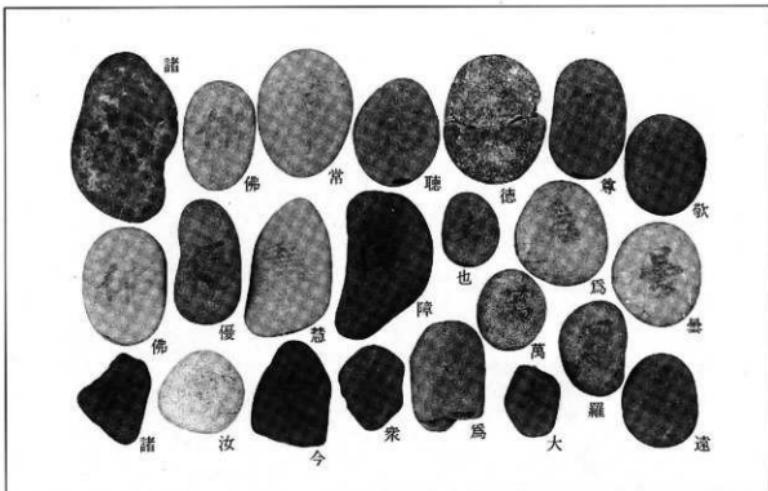
裏



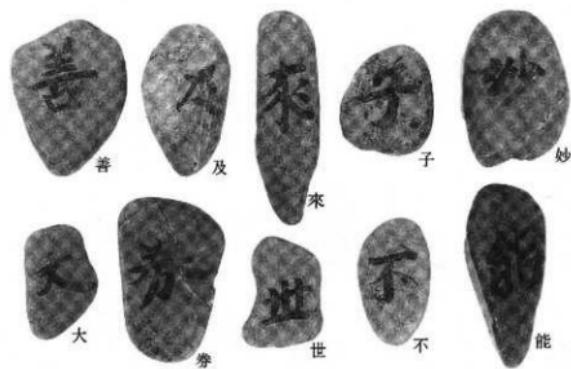
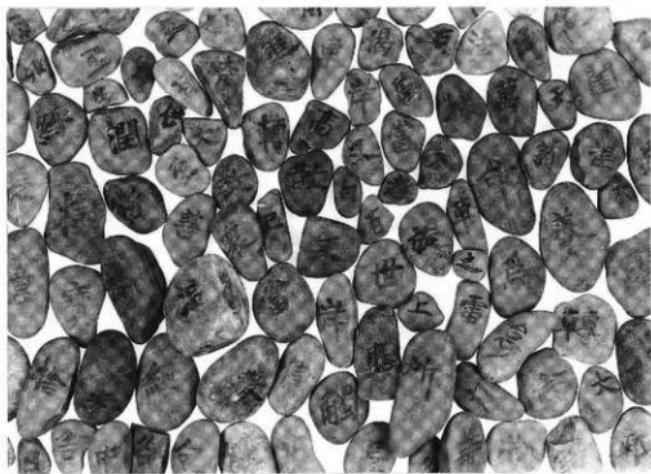
経石(15) 上・中(両面に漢字を有する経石)、下(梵字)



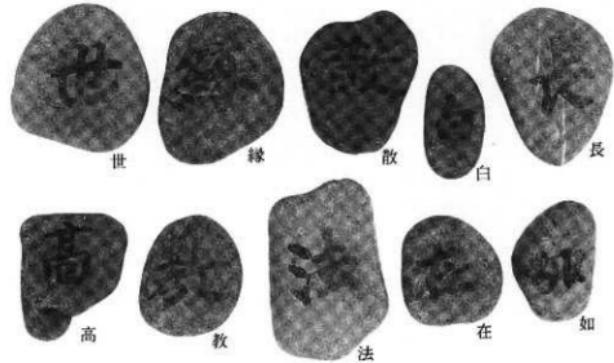
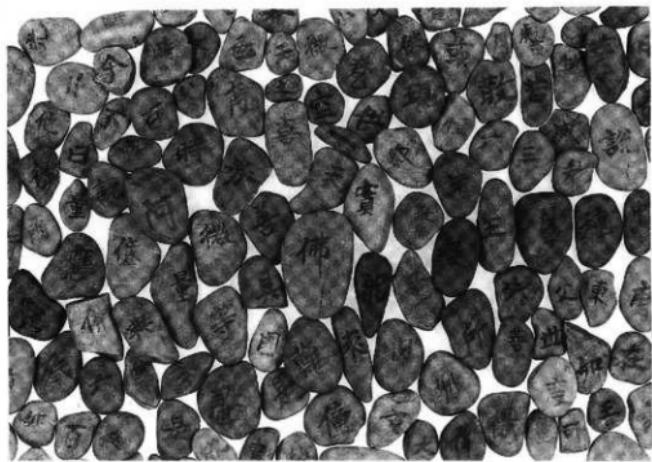
経石(16) 上(表～漢字)、下(裏～梵字)



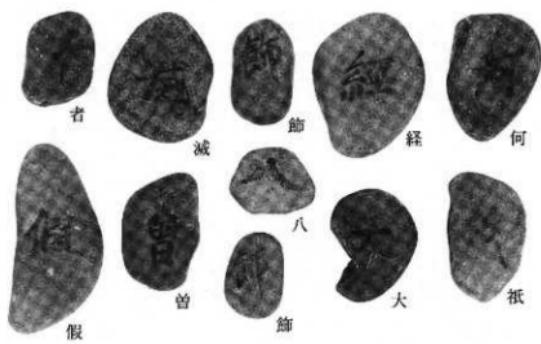
経石(17) 上(表~漢字)、下(裏~梵字)



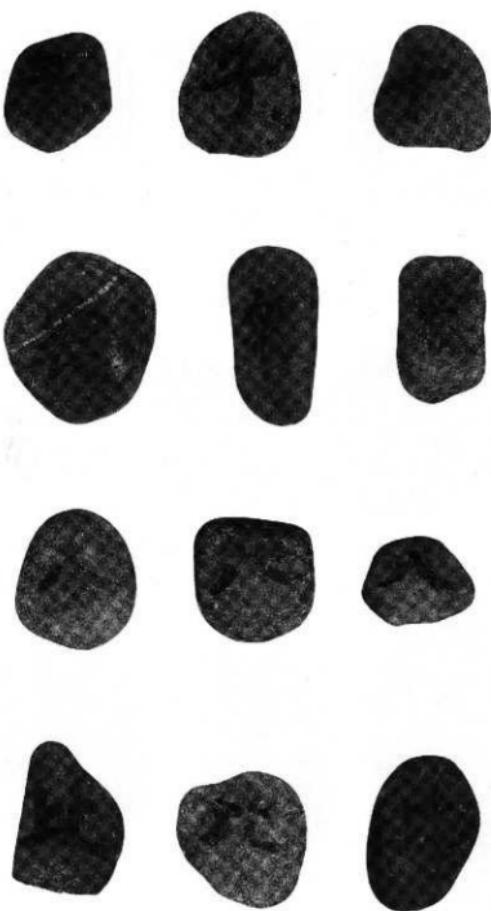
経石(18) A書体の文字



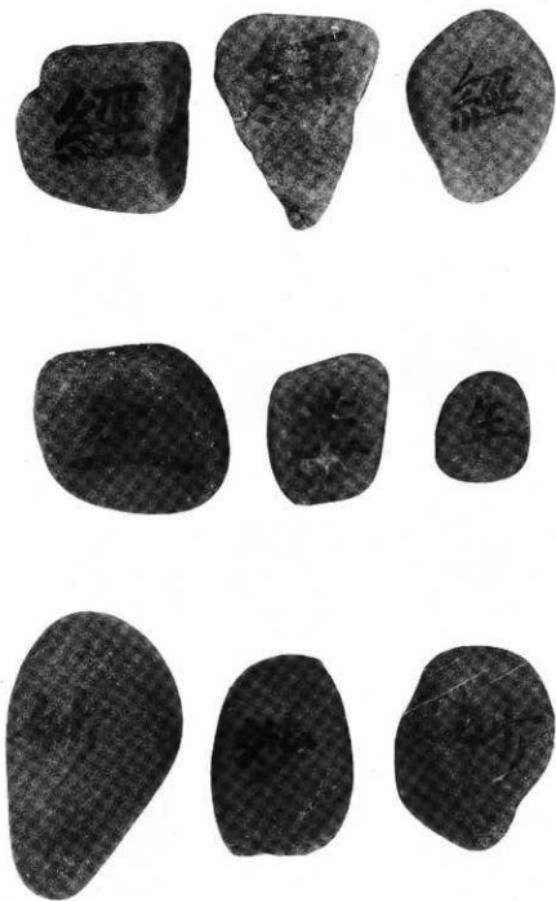
経石(19) B書体の文字



経石(20) 上(C書体の文字)、下(A、B、C書体の文字～「所」)



経石(21) A、B、C書体の文字(上から「子」、「衆」、「八」、「比」)



経石(22) A、B、C書体の文字(上から「經」、「生」、「妙」)



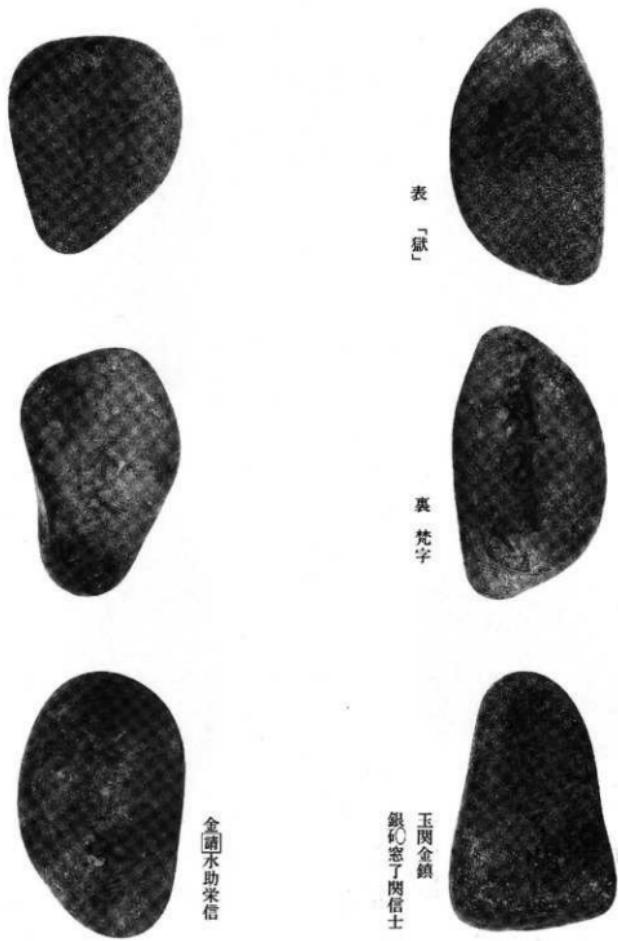
経石(23) A、B、C書体の文字(上から「天」、「与」、「法」)

第二卷  
妙法蓮華經  
贊喻品



夢幻童子  
實得止居士  
妙真信女

経石(24) 多字一石(妙法蓮華經ほか)



経石(25) 多字一石



経石(26) 多字一石

## 報告書抄録（記載様式案）

ふりがな	しもべっぷいいちじいせききょうづか							
書名	下別府一字一石経塚							
副書名	県道島ノ内一の宮線(新別府通線)改良工事に伴う発掘調査報告書							
卷次	一							
シリーズ名	一							
シリーズ番号	一							
編著者名	永友良典、長津宗重							
編集機関	宮崎県教員委員会							
所在地	〒 880 宮崎県宮崎市橘通東1-9-10 TEL 0985(26)7250							
発行年月日	西暦 1995 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
<small>下別府 一字一石経塚</small>	<small>宮崎市吉村町 字下別府甲 4057-2</small>	45201				1986.1.14 ～ 1.22	5	県道改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下別府一字一石経塚	祭祀	近世 (享保15年)	一字一石経納塚 碑石、基壇	経石(68,090個)		「妙法蓮華経」		

## 下別府一字一石経塚

県道島ノ内一の宮線(新別府通線)  
改良工事に伴う発掘調査報告書

1995.3.31

編集：宮崎県文化課 宮崎市橋通東1-9-10

☎ 0985(26)7250

発行：宮崎県教育委員会

印刷：(有)富士写真印刷